

脂肪細胞使って 初の遺伝子治療

千葉大付属病院

千葉大付属病院は17日、患者の脂肪細胞を使う遺伝子治療の臨床研究が厚生労働省から承認された、と発表しました。脂肪細胞を用いる遺伝子治療は「世界初」としている。今年度中に始め、血友病や糖尿病などの治療への応用をめざす。臨床研究の対象は、LCA

ATと呼ばれる遺伝子に変異があり、体内のコレステロールを正しく処理できないまれな遺伝性の病気の患者。患者から取り出した脂肪細胞に正常なLCAAT遺伝子を導入してから体内に戻し、重い腎不全などにならないようにする。

黒田正幸特任准教授(遺伝子細胞治療)は「遺伝子を脂肪細胞に導入する技術が確立すれば、糖尿病などほかの病気にも応用できる」としている。